

さざなみ

国語教室

さざなみ国語教室
 第448号 2019年7月25日
 発行者代表 吉永幸司
 連絡先 大津市柳川2-11-5
 TEL 077-522-1008
 発行所 滋賀児童文化協会
 NPO 現代の教育問題研究所

現場からの報告
 『私立小学校六年生の言語環境
 における一考察』①

長谷川 一郎

私立小学校教師として三十五年目を迎えた。その三分の一以上を六年生の担任として勤務した。そして、今年もまた六年生の担任として新しい一年を過ごしている。

さて、私立小学校の六年生といえば、中学受験を間近に控え、自身の成績や進路が何事をするにおいても念頭から離れず、多感な思春期とも相まって精神的にナーバスになりやすい。当然、担任も小学校生活最後の一年において種々の行事や様々な学習活動が子ども

達の手によってうまく運ばれていくよう、日々の学習指導や生活指導に充たっていくと共に、如何に受験に向かわせるか、サポートできるかという課題も常に抱えているのが現状である。

多くの児童は、受験に備えて進学塾に通っており、宿題などの課題に日々追われている傾向が強い。また、週末には、模擬試験に時間を費やすことも多々ある。

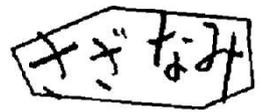
そして、そんな子ども達の束の間の楽しみはといえば、ゲーム

をしたり、ユーチューブを見たりすることが多くを占めているようである。

毎朝、クラスの三分の一程の児童は、八時前の早くに登校して来る。眠たそうな表情で教室に入ってくるのかと思っていると、そうではなく、ちょっとした旅から帰ってきたように机に荷物を下ろし、始業の準備をしながら元気に喋り出すのである。

「ユーチューブの〇〇はもう見た?」「ゲームの〇〇は意味がよく分からんわ」などと、ユーチューブやゲームの話題で話はずむ。ただ、さすがは受験生。月曜日においては、模擬試験の問題や点数のことで話に花を咲かせる場面もあちらこちらで見られる。

さて、前置きが長くなったが、私は、最近特に、六年生の子どもの言語環境について強い危機感をもつようになった。



▼徳川家康の家臣、本多作左衛門重次が陣中から妻に送った「一筆啓上、火の用心お仙泣かすな馬肥やせ」という手紙。その碑が立つ坂井市が手紙文化の発信地として「日本一短い

母への手紙」を募集したのが二十数年前。「お母さん、反対して来て有難う。おかげで辛抱できました。結婚生活、十七年。」「母さん、ありがとう。母さんが私を信じてくれたからこそ、私も娘を信じぬけます」手紙の奥にあるの気持ちに感動しノートにメモをして繰り返し読んだことを記憶している▼「一筆啓上賞」通算第26回! 「日本一短い先生への手紙」を見つけた。手紙の相手は、学校の先生、医師、パソコンの先生としての孫と多様。「僕のこと、知っていますか?」から始める中学生。「僕は全体のひとりです」と自分を語り、「いつか見つけてみてください」にどきどきとする。相手は校長先生。76歳の方は、診察の度に「加齢」という言葉を「綺麗」と言っただけという医師への手紙も▼もし、手紙を書くとしたら小学一年生担任の藤岡先生。「母が尊敬していた先生です。教え子をして先生のようになりたい。くっずと生きてきました。」▼「一つの花」のゆみ子に、「ごんぎつね」のごん、あるいは兵十に「短い手紙」を書くという授業してみたいなと熱い気持ちわいてきた。(吉永幸司)

作文指導のアイデア
 (二年生)
 北島 雅晴

文字を書くことに抵抗がなくなり、一年生から引き続き担任しますと、「すらすらと書けるようになったなあ。」と、感心することが多いです。それ以上に、二年生の特徴として、学年後半の伸びる目を見張るものがあります。

例えば、題名に目を向けてみます。一学期は、「へ行つたよ」といった語尾の題名が多くありますが、三学期になると全くなくなります。学年の前半に地道に積み上げたことが、後半で花開くという観があります。

◆題材「この漢字を使って」

この学習は、作文というよりも日々の日記に取り入れるとよいでしょう。文章のどこかに、指定された漢字を使う、それだけの約束で書きます。既習の漢字を書く時に使うようにする、というねらいで始めたのですが、全く違う効果がありました。例えば、「丸」という漢字が課題の時の日記です。

○おじいちゃんちきゆうぎ
 おじいちゃんが、ちよっけい35センチのちきゆうぎをもらってきてくれました。あたらしくて、ピカピカしていました。

おばあちゃんがきれいにそうじをしてくれました。ちきゆうぎは丸いです。そして、ぐるぐるまわります。おじいちゃんと、あてっこをしました。(以下略)

ただ、「丸」という漢字を使えばよいだけですが、子どもたちは、「丸いものはないか」とさがして書くのです。結果として、ふだんとは違う題材で書くことになりました。このように、漢字を使う習慣よりも、題材を広げることに効果があることが分かりました。

学年後半になりますと、一度は大作に挑戦させたいと思います。

◆題材「わたしの成長」の本

生活科との関連で行う学習です。私の成長という題材で、どのような本を作りたいか、計画を立てるのが特に楽しいです。

「生まれたころの話をお母さんに聞きたい。」

「二年生になって逆上がりができることを書きたい。」

話し合いを参考にして、各自で目次をつくりまします。

- 第一章 生まれた時は小さかった
 - 第二章 三才の時の大きなけが
 - 第三章 ピアノを習いはじめた
 - 第四章 一年生の友だち
 - 第五章 九九のたのたの
- この学習は、いかにいい資料を集めるか、取材力が大きくものをいいます。「いい本をつくりたい」という子どもの思いをうまく引き出しながら進めたいです。
- 各章、二〇〇字程度で書きますが、この本を完成する力があれば、三年生への橋渡しは十分だと考えます。

(前草津市立志津小学校)

毎回悔しく思う
 西條 剛之

さざなみ国語教室のホームページをご覧になったことはあるだろうか。その中には、本誌のバックナンバーも保管されており、遡ると平成十年7月号まで閲覧することができる。秀逸なのは記事検索である。学年・領域別にありとあらゆる実践や報告を拝見することができこのページは、私にとつては金銀財宝のありかを見つけたような、そんな心持ちにさえさせられる。

『一つの花』の授業を行った。

私の永遠の課題、そして弱点である“基本的な学習”にまた、陥ってしまった。初発の感想、子どもたちからは、様々な疑問が湧き出る。「食べものじゃないコスモスをゆみ子は喜んだのか」「何も言わずに汽車に乗ったお父さんの思いとは」「なぜ十年後の場面になるのか」「お父さんが帰ってこないのはさみしいけれど、その時代にいるとみんなさうなのか」など、それぞれの疑問に端を発して、学習課題を組み立てていった。読み

を深める中で、時間も余裕もなくなってくる。そして、終末の活動に選んだのは、「紹介文を書こう」であった。学習の手引きに沿って紹介文を書く材料を集めていく。

子どもたちは一生懸命に作文を続けていたが、なかなか筆が進まず、苦しい思いをさせてしまった。子どもたちの「書きたい!」「書かねば!」という思いをもう少し引き出せたのではないかと、そして、紹介文という形が本当にこの学習の終末にふさわしかったのかという疑問がぐるぐる頭を巡る。「こうあるべき」という“教え込む授業感”から抜け出せないでいる。道を逸れると不安になるのである。

そんな時、さざなみのバックナンバーを見る。『一つの花』についても様々な実践が綴られており、やはり、子どもの姿が中心となって語られている。教師の手を離れ、子どもたちが課題とともに成長していく姿、主体的で対話的で深い学びがそこにはあった。記事を読むたびに、後悔と勇気を私に与えてくれる。毎回、悔しく思う。昨日の自分にも、過去の先達にも負けるもんかと奮い立たせてくれる。

(大津市立小野小学校)

みんなで五七五のリズムにのせて 北川 雅士

今年度は5年生の担任をして... 毎年の学年でも季節の... 葉の学習では俳句作り... 会をはじめとして、幾... 実践や、子供が夢中... 今年度はそれを自分... 行っている。今年度... への苦手意識が強い... 作る」というだけで... きない」という思い... そこです。春をテーマ... ける言葉を書き出し... きた言葉を書き出し... て句を詠んだ。...

授業の終わりに、「自分... が一番夏らしい」と思... 配ると、「もっと考え... だ試してみたい。...

「炎天下 めっちゃ暑い 夏模様」 「川遊び 星の観察 夏祭り」 「青い海 むぎわらぼうし 一打ぎ やくてん だいせんせい」 「カブトムシ ミヤマクワガタ セミのこえ」 「夏休み 水泳教室 ひらおよぎ」

「学校を改革する」II 廣瀬 久忠

「夏休みの宿題がかわる」ことを... 六月の全校集会で話した。「四三日... 間の長い休みだからできる課題を... 究し、その結果をまとめて表現す... と」がその中心。自分が日頃から... 味を持つていて「知りたい、分か... たい。とことんやり抜きたい」課... を決め。その課題は普段の学校に... っているときにその日の宿題で解... できるような内容は指さない。長... 夏休みに何日かを費やして教科書... 読み、副読本や資料集を読んだ... 読み、調べたりし、他の本を調べ... 図書館に行ったり、インターネット... で調べたり、その道の専門家に取... したり、関係のあるところへ出... たり、困ったときに先生や周りの... に尋ねたりして課題追究する。夏... らではの学習として生き物の観... とことんしたい子どもを観察す... 生き物の生態をとことん観察し... くうちにとんどもんども観察し... る。はてながとんどもんども... のはてながとんどもんども... かを考えることは低学年でも... る。野菜を育てた低学年の子... 他の野菜にも興味が生まれる。畑... ことなら何でも詳しい畑のプロ... かうチャンスである。野菜のこ... 考えているうちに、天候のこと... 菜につく害虫のこと。野菜の病... こと。土づくりに。肥料のこと... 化学肥料のこと。有機肥料のこ... 環境ごだわり農業のこと。土地... の生き物のこと。やがて：：食... と言うこと。命と言うこと。生... と言うこと。晴耕雨読と言うこ... おばあちゃん知恵袋というこ... と、課題がどんどん更新していく... この学びの世界はますますどん... 学びへの意欲が高まりきりが... しかし、学びの楽しさをつかんだ...

どもは更に前向きに学ぼうとする... 追究する方法を夏休みに入るまで... に先生と相談し、まとめ方も相談... 決方法・まとめ方」の計画をし... だから全員同じ課題ではない。自... ・まとめ方の量も質も子ども一人... とりが決める。自分の課題解決意... により「大変だけど、やりきる」... どもをこの夏休みに育てたい。こ... 社会がかつてのように「レール... を走る人」が求められる状況から... や「自分でレールを敷設する人」... 求められてきている。「言われた... こなすと幸せになれる」と「知... くさん持つていけると幸せにな... 「まわりと同じことをしていれば... せになれる」時代は遠い昔に終... しまった。今ある職業の半数は... どの未来にはAIにとつてかわら... のは自明の理。取つて代わられ... 仕事をしていて人が新たにうま... 仕事に就ける確率は低いと学者... 測している。AIにできないのは何... AIの時代に人が人としてのしあ... 追究できる体力と知力をつけな... ばならない時代。「誰々さんが... いるから：：」「目立つ杭は打た... るから：：」の発想では子ども... 来の幸せは約束されにくい。... この新しい時代の子どもたちに... 要な力は、「この社会にあふれて... 情報や様々な媒体から集め、必... な情報を分析し、自己解決すべ... 題に向かう。課題解決の成果を... どのような方法で伝えるか選択... 理解を得る努力をする」ことだ。... 休みの宿題のメインをこのよう... フトするのはこの社会の流れに... て働く力を育てたいと考えてい... らだ。共通の宿題は五つ①課題追... 究研究②読書③生活表④体力作り⑤... 家での仕事。あとは選択。どん... やればよい。(湖南市立菩提寺北小)

手段とけるべき力と目標と

杉澤 周一

有り難く、授業を参観させてい
ただく毎日である。すると、同じ
単元の授業を同時期に二、三回観
ることがある。三年物語「ゆうす
げ村の小さな旅館」(茂市久美子
・著・東京書籍)の授業もその一
つ。そして、考えたことがある。

「しかけ」を見つけることが主目
標?学習活動も評価もそれが主?
旅館を一人で切り盛りするつぼ
みさんを近所の美月という女の子
が手伝い助ける。ウサギダイコン
などの材料で作った料理はお客さ
んに大評判。やがて女の子の正体
はウサギあることがわかる。それ
までに、それを仄めかす言葉や文
が幾つか出ている。「色白のぼつ
ちやりしたむすめ 宇佐見美月ウ
サギダイコン 耳がよい」

教科書と指導書は、それを作者
の「しかけ」とし、単元目標を「出
来事を読み取り、物語のしかけを
見つけることができる。」として
いる。場面読み数時間の目標は「場
面でも起きた出来事を読み取り、人
物の様子や気持ちを想像しながら
読む。」学習指導要領の該当の重
点指導事項は「場面の移り変わ
りに注意しながら、登場人物の性格
や気持ちの変化、情景について、
叙述を基に想像して読むこと」「目
的や必要に応じて、文章の要点や
細かい点に注意しながら読み、文
章などを引用したり要約したりす
ること」と示している。

そして、つけたい力の項には説
明図で、「場面と場面とを関連づ
けて読む。文章中の語や表現に着
目して読む。」とあり、記述には
「物語の「しかけ」を探すことで
場面と場面を関連づけて読み、人
物像や人物の気持ちの変化を想像
しながら読む力をつけることをね
らいとした。」とある。
つけるべき力はどのようなもの
で、どのようにつけるのか?

目標と学習活動、評価・ふり返
り二例AとBを並べ考えてみた。
「目標・課題提示 学習活動」
A 美月がウサギであることがわか
るしかけの言葉や文を見つけれ
よう。線を引き、みんなで確
かめ合います。

B 美月がウサギであることがわか
るしかけの言葉や文を見つけれ
ましょう。線を引き、理由を考
えて書き、それらを出し合いま
しょう。それらを参考に、
場面と場面のつながりや人物の
様子を思い浮かべながら、この
場面を読み味わいましょう。

「評価 ・子どものふり返り」
A たくさん見つけましたね。
・たくさん「しかけ」をみつけ
られて良かったです。
B 理由を出し合い、美月とウサギ
が重なり想像がふくらみました
ね。見つけたしかけの場面で、
ウサギを思い浮かべながら、読
めましたか、場面と場面がつな
がるどころがありましたね。そ
れらを想像しながら、この場面
を読み味わえましたか。

・「しかけ」について、理由や場
面のつながりを話し合い、それ
らを思い浮かべながら読むと
最初より楽しく読めました。

Bは、「しかけ」を見つけるの
は読み取る力の一つではあるが、
豊かに想像しながら読む目的のた
めの手段と捉えた実践である。す
ると、主目標は場面の様子やつな
がりについて学び合い、それによ
り豊かに想像しながら読み味わ
うこととなり、学習活動も評価も
それを外せない。指導計画の展開も
子どもに向けて言葉も、それに応
じたものになる。見つけられて良
かったと終わるのではなく、学び
をふり返りながら想像豊かに読ん
で終わるのが必然となる。

終末に全文を読む際、「しかけ」
の言葉や文の確認が主な活動では
ないだろう。初発の読みとは変わ
ったことを自覚しながら想像豊か
に読み味わう子どもの姿を見た
い。
この学びの姿を今後の学習や
日常の読書活動につなげ、力とし
て定着させる意図をもちたい。
手段の後に目的がある。したが
って手段は主目標にはならない。
学習指導要領と教材を子どもに照
らし、それに応じて指導書等関連
資料を読み解き、本来子どもにつ
けるべき力を焦点化し、それが得
られる目標と計画、実践、評価を
構想したい。終末に子ども個々が、
今後の自立につながるように読ん
でいる姿を思い描きながら。
(東近江市教育委員会
学校教育課)

編集後記

▼六月例会
(四四七回)
は、第六回「近

江の国語実践研究会」(草津市ま
ちづくりセンター)に参加しまし
た。研究会の目的は、授業実践の報
告という内容で授業力を育てるこ
とです。今年度は、一年「じどう
車くらべ」(梅野康子先生・本庄
小)六年「鳥獣戯画」(北川千絵
先生・矢倉小)が教材研究と授業
実践を引き受けました
▼話題になったことは①教材の特
性と語彙について②対話を通して
授業を深めるということでした。
①では、「し」と「つくり」を始
め、繰り返し出てくる語彙、内容
理解には知識として知っておく語
彙についての指導②では、言語活
動の日常化や教材と子どもの学び
をどのようにつなぐかということ
について参加が文章の特性を含め
て意見を交流しました。
▼実践講座「へやつてみよう」と
即き出す授業のネタ」を勝矢真一
郎先生(伴谷東小)が音読や漢字
指導について発表をされました。声
を返すという簡単に見えぬことも
繰り返すと確実に力が育つ姿を動
画を通して理解を得ることがで
き、明日からの実践に役立つわく
わくする講座でした。
▼「研究会に学ぶ」を吉永が担当
し「深い学びを実感できる学習づ
くり」についてが内容。研究会の
成果を、国語科の目標である、知
識技能の習得と深い学びを授業で
感じるといふ場と機会、方法につ
いてまとめました。▼巻頭には、
長谷川一郎先生から玉稿を頂きま
した。深謝。
(吉永幸司)